

## 2017年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

(進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。)

2016年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 なし
2016年度外部評価委員会指摘事項 なし
前年度からの課題（2016年度点検・評価シート IV次年度への課題 より転記） 4-1-4 全学共通科目・語学教育科目等の教育目標および教育課程の編成・実施方針と Daito Vision 2023 の「教育の目的とする能力と人格（大東学士力）」との関連付けをはっきりさせる（単年度目標）。その上で、必要があれば書き直す。また、その「教育の目的とする能力と人格」の測定（評価）方法については4-4を参照のこと。

## Ⅰ 評価項目・担当部局

対象部局	東松山キャンパス運営委員会
評価基準4	教育内容・方法・成果
中項目 4-1	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針 【自己評定 A】
点検・評価項目(1)	4-1-1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示
	教育目標と学位授与方針との整合性
	修得すべき学習成果の明示
点検・評価項目(2)	4-1-2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
点検・評価項目(3)	4-1-3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性
	社会への公表方法
点検・評価項目(4)	4-1-4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

## Ⅱ 点検・評価 対象期間は2016年4月～2017年5月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は2017年5月1日）

## 【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-1-1	東松山キャンパス運営委員会は、教育・研究環境、学生支援のほか、「東松山キャンパスの学部横断的な共通教務に関する事項」を協議・調整し（運営委員会規程第2条1）、主に1、2年生を対象とする教養科目（全学共通科目）・語学科目等を学部学科の枠をこえて推進するための組織である。学位を授与する権限を有しないため学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）は定められていないが、教育目標は、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）の冒頭で明示されている。
4-1-1	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 教育目標、学位授与方針の策定について【×】 具体的事例：
4-1-2	東松山校舎で開講される全学共通科目等を管轄する東松山キャンパス運営委員会は、2015年6月に、運営委員会の下にある全学共通科目分科会・保健体育分科会が全学共通科目について、英語分科会が英語科目について、外国語分科会が外国語科目（ドイツ語、フランス語、中国語等）について、それぞれ教育課程の編成・実施方針を以下のように定めた。 <b>&lt;全学共通科目&gt;</b> 全学共通科目は、豊かな教養と高い倫理性を備えた人間を育成することをめざして、本学に所属する専任・非常勤の教員が総力を結集し、幅広い学問分野を基礎とした多様な内容の授業を提供する。それは大きく「基本科目」、「課題（テーマ）科目」、「教職課程専門科目」という3つの科目群から構成されており、それぞれ以下のような方針で教育課程を編成・実施する。 1. 「基本科目」は、人類が長い歴史を通じて探究し積み上げてきた学問の体系と方法をわかりやすく教授し、また健康な心身を育むために、A系：人間と文化（人文系）、B系：社会と生活（社会系）、C系：自然と環境（自然系）、D系：健康とスポーツ（保健体育系）の4系統から構成する。「基本科目」の履修により、どの学部・学科に所属する学生であっても、学問研究を支える基礎的な知識と技能、高い教養と幅広い視野を獲得できるようにする。 2. D系：健康とスポーツの教育課程は次のような特色をもつ。

	<p>(1) 講義科目（健康スポーツ科学）を通して、学生が健康科学についての基礎的な知識を得て、各人の健康管理や健康水準の維持・増進に役立つ知識・技術を修得できるようにする。</p> <p>(2) 実技科目（総合体育、体育実技）を通して、学生がストレスケアとしても有効な身体活動を定期的実践し、自らの健康水準を維持・増進できるようにする。</p> <p>(3) 野外実習（スキー、スクーバダイビング）を休暇期間中に学外での合宿形式の集中授業として実施し、これを通して学部・学科の壁を越えた受講生同士のより深い交流を促進する。</p> <p>3. 「課題（テーマ）科目」は、人類の社会と生活に密接に関わる課題を通して現代世界への問題意識と異文化への理解、総合的な判断力を育てるために、第1群（地域・国家・民族の考察）、第2群（女性・子ども・老人への視点）、第3群（人権・民主主義・平和を考える）、第4群（現代社会の諸問題）、第5群（異文化・世界にふれる）、第6群（自己・人間をみつめる）、第7群（キャリアデザイン）、第8群（全学共通特殊講義）の8群から構成する。「課題（テーマ）科目」の履修により、現代社会で生活していく上で必要不可欠なテーマを、学問の枠に捕らわれずに追究・深化できるようにし、また専門教育への動機づけを与える。</p> <p>4. 「教職課程専門科目」の履修により、中学校・高等学校教諭免許を取得できるようにする。</p> <p><b>&lt;英語&gt;</b></p> <p>英語の4技能（「話す」・「聴く」・「読む」・「書く」）の育成を通して、グローバルな視野で異文化を理解し、批判的思考（クリティカル・シンキング）を通して自分の意見を論理的に述べる能力、多文化共生社会を推進する能力を有する人材を養成するため、以下のような特色を持つ英語教育課程を編成・実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語科目は、各学部各学科にこれを設置し、各学科および各学年の特性に合わせた英語運用能力の育成をはかる。</li> <li>2. クラス編成は必修科目と選択科目とに大別し、必修科目では主に基礎的・総合的な英語運用能力（話す・聴く・読む・書く）の向上に、また選択科目では目的やレベルに特化した英語運用能力（英語検定試験対策や時事英語など）の向上に力点を置く。</li> <li>3. 学習者一人一人の到達度を確認し、習熟度別クラス編成、少人数教育、外部英語試験の導入、双方向的な学習環境の整備などを通して、学習者が自分の意見を発信できるようにする。</li> <li>4. 海外留学および語学研修は、その機会をさまざまに設け、これを奨励するとともに、事前事後の学習指導を綿密に実施し、学習者がその機会をより有意義なものにできるよう支援する。</li> <li>5. CALL や E ラーニングなどコンピュータを利用した教育、国際色あふれる外国人講師（ネイティブ教員に限らない）による授業などを設置して、一人一人の到達度に応じた学習の場、国際的な知見を養うためのコミュニケーション実践の場を提供する。</li> <li>6. 英語教育を通して、現在のグローバル化された世界情勢を踏まえた異文化理解／批判的思考（クリティカル・シンキング）、および自国の文化をも相対的に見る視点を育成し、これによって多文化共生社会の担い手となる人材を養成する。</li> </ol> <p><b>&lt;外国語&gt;</b></p> <p>ドイツ語、フランス語、中国語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、タイ語、インドネシア語、コリア語、ビンナン語、およびラテン語、古典ギリシャ語の計13言語の多彩な外国語の授業を展開し、グローバル化が進む社会生活の中で一層重要度を増す外国語の運用や異文化理解の能力を有する人材を養成するため、以下のような特色を持った外国語教育課程を編成・実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多様なクラス編成を通じて、読む・書く・聞く・話すという外国語の総合的な運用能力を高める。</li> <li>2. 受講生の数を制限し、学生と教員、あるいは学生同士が対話する機会を多く設けて、自ら思考し、意見を述べる姿勢を培う。</li> <li>3. 基幹となるドイツ語、フランス語、中国語において、通常よりも授業数が多い「強化クラス」を設置し、効果的かつ集中的に外国語を教授する。</li> <li>4. CALL（コンピューター支援言語学習）を積極的に導入し、音声や画像などマルチメディア教材を介して、個々の理解や達成度に合わせた教育を行う。</li> <li>5. 海外留学および研修の機会を設けるとともに、資格試験受験を奨励することで、外国語学習の意欲を高める。</li> <li>6. 外国語の習得を自己と向き合う成長の過程として捉え、自国の言語や文化を客観的に見直しつつ、バランスの取れた国際感覚を養う。</li> </ol>
4-1-2	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>(1) 教育課程の編成・実施方針の策定について【×】 具体的事例：</p> <p>(2) 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示について【×】 具体的事例：</p>

4-1-3	全学共通科目等にかかわる教育課程の編成・実施方針は、2015年6月に明文化し、大学ホームページで公表するとともに(B4-1-2)、各学部の「履修の手引き」に掲載している。
4-1-3	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 (1) 大学構成員への周知方法と、その有効性について【×】 具体的事例： (2) 社会への公表方法について【×】 具体的事例：
4-1-4	カリキュラム編成・教員配置等については東松山キャンパス運営委員会を中心に検証されている。
4-1-4	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】 具体的事例：

【効果が上がっている事項】

4-1-1	
4-1-2	
4-1-3	大学ホームページ、各学部の「履修の手引き」が活用されている。
4-1-4	体系的な検証の仕組みが整備されている。

【改善すべき事項】

4-1-1	
4-1-2	
4-1-3	
4-1-4	全学ならびに各学部・学科の学位授与方針との整合性の視点から、各学部教授会、全学教務委員会および東松山キャンパス運営委員会の権限、役割を明確にさせておく必要がある。

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	4-1-1,4-1-2 全学共通科目・語学教育科目等の教育目標、教育課程の編成・実施方針を定め、公表する。	全学共通科目・語学教育科目等の教育目標、教育課程の編成・実施方針が大学HPおよび各学部の「履修の手引き」に明示されている。	→			S	S	
	4-1-4 全学共通科目・語学教育科目等の教育目標、教育課程の編成・実施方針の定期的な検証を行う。	全学教務委員会および東松山キャンパス運営委員会の議事録に検証の経過ならびに結果が記録されている。	→			B	A	
16年度 目標	4-1-4 全学ならびに各学部・学科の学位授与方針との整合性の視点から、全学共通科目・語学教育科目等の教育目標および教育課程の編成・実施方針の検証を行う。	全学教務委員会における検討に基づき、東松山キャンパス運営委員会において議論が開始されている。				B		
17年度 目標	4-1-4 全学ならびに各学部・学科の学位授与方針との整合性を図りつつ、全学共通科目・語学教育科目等の教育目標および教育課程の編成・実施方針の検証を行う。	東松山キャンパス運営委員会、同教務部会、同部会各分科会が有機的に連携して活動し検証が行われている。					S	

Ⅳ 評価専門委員会所見

4-1-1、4-1-2(1)(2)、4-1-3(1)(2)、4-1-4【現状】すべて取組またはその成果は無【×】でしたが、効果が上がっている事項(4-1-3、4-1-4)の記述もありました。 4-1-4【改善】は委員会として重要事項ですので今後の成果に期待します。
---

Ⅴ 所見への対応

4-1-4 東松山キャンパス運営委員会の権限、役割を明確にさせる用勤めていきたい。

VI 次年度への課題

検証の体制はできているが、その権限、役割についての全学的な理解が十分とはいえない。引き続き4-1-4の改善課題に努める。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A4-1-1 大東文化大学学則 <既出>A1-1  
 B4-1-2 大学ホームページ（情報公開）<http://www.daito.ac.jp/information/open/index.html> <既出>B1-6  
 B4-1-6 大学ホームページ（自己点検・評価活動）  
<http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html> <既出>B1-16  
 B4-1-12 大学データ集 <既出>B1-22  
 A4-1-4 東松山運営委員会会議録

〔追加資料〕